

GX率先実行宣言

社会全体のGX加速化に向けて、GX製品・サービスの早期社会実装が極めて重要であることから、当社は自らのScope 1、2の削減取組に加え、これらの製品・サービスが有するGX価値の評価を通じてGX製品の社会実装に積極的に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進することを宣言します。

1.早期の社会実装に貢献するGX製品

当社は、以下に関連するGX製品の早期社会実装に貢献します。

a.	分類	GI基金支援技術を活用した製品
	対象	大規模水素サプライチェーンの構築
b.	分類	低炭素水素等
	対象	水素
c.	分類	GI基金支援技術を活用した製品
	対象	CO2等を用いたプラスチック原料製造技術開発
d.	分類	GI基金支援技術を活用した製品
	対象	CO2を用いたコンクリート等製造技術開発
e.	分類	GI基金支援技術を活用した製品
	対象	CO2の分離回収等技術開発
f.	分類	GI基金支援技術を活用した製品
	対象	次世代船舶の開発

2.具体的な行動内容

当社は、前項で選択した事項に関連して、具体的には以下の行動を推進することで、GX製品の早期社会実装と社会のGXに貢献します。

a.	大規模水素サプライチェーンの構築
対象行動	研究開発・実証
概要	大規模水素サプライチェーンの構築により、水素社会の早期実現を目指します。また、水素の社会普及により、当社のScope1、2はもちろんのこと、Scope3の削減にも寄与します。

b.	水素
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	水素を積極的に調達することで、社会全体への水素の普及や利活用へ貢献します。 調達した水素は、当社の水素ガスタービン、水素ガスエンジン等の自社使用をおこなっていきます。

c.	CO2等を用いたプラスチック原料製造技術開発
対象行動	研究開発・実証
概要	CO2を原料とした基礎化学品であるパラキシレンの製造を可能とする技術を構築します。2025年度の実証完了を目指します。

d.	CO2を用いたコンクリート等製造技術開発
対象行動	研究開発・実証
概要	川崎重工と鹿島は、川崎重工が保有する DAC（Direct Air Capture）を、鹿島らが開発したカーボンネガティブコンクリート「CO2-SUICOM」（シーオーツースイコム）の製造に利用するための共同研究を開始しています。

e.	CO2の分離回収等技術開発
対象行動	研究開発・実証
概要	当社は、固体吸収材を用いたCO2分離回収技術（Kawasaki CO2Capture:KCC）の開発をしています。当初、この技術は、閉鎖空間中の呼気由来のCO2を除去する技術として開発されましたが、2000年代からは地球温暖化対策として排ガス中のCO2除去に適用すべく開発を開始してきております。2025年度以降に商用展開により、社会実装を目指します。

f.	次世代船舶の開発
対象行動	研究開発・実証
概要	舶用水素エンジン、舶用水素燃料タンクおよび燃料供給システムの新開発、実船実証運航を行い、機能および信頼性を確認し、社会実装につなげます。2030年度までに実証完了を目指します。

3.サーキュラーエコノミーの推進

当社は、サーキュラーエコノミーを推進しGXを実現するため、自らのサーキュラーパートナーズ（CPs）への参画や、製造業者と廃棄物リサイクル業者との事業連携を自ら進めるとともに、再生材の調達を積極的に検討することによって、新たな資源の使用や消費を最小限に抑え、既存の資源の価値を最大化する経済システムの構築を目指します。

4.温室効果ガス削減目標の設定

当社は、サプライチェーン全体でのGXを推進すべく、Scope3の削減に向けて以下の目標を設定します。また、第2項に記載した行動内容が、Scope3の削減に対してどのような効果があるかを以下に示します。

※ 第2項に記載した行動内容がScope1,2の削減に資する場合は、Scope1,2の削減に関して以下に示します。

a.	大規模水素サプライチェーンの構築
削減対象	Scope 1 + 2

目標年度	
基準年度	
目標削減率	
削減目標における選択対象の位置づけ	

b.	水素
削減対象	Scope 1 + 2
目標年度	
基準年度	
目標削減率	
削減目標における選択対象の位置づけ	

c.	CO2等を用いたプラスチック原料製造技術開発
削減対象	Scope 3
目標年度	
基準年度	
目標削減率	
削減目標における選択対象の位置づけ	

d.	CO2を用いたコンクリート等製造技術開発
削減対象	Scope 3
目標年度	
基準年度	
目標削減率	
削減目標における選択対象の位置づけ	

e.	CO2の分離回収等技術開発
削減対象	Scope 3

目標年度	
基準年度	
目標削減率	
削減目標における選択対象の位置づけ	

f.	次世代船舶の開発
削減対象	Scope 3
目標年度	
基準年度	
目標削減率	
削減目標における選択対象の位置づけ	

5.GX製品の社会実装促進に向けた目標の設定

当社は、前項に掲げた削減目標に基づき、以下の時間軸・定量的目標に沿って、第1項で選択したGX製品・技術及びそれらから派生するサービスの社会実装に貢献します。

a.	大規模水素サプライチェーンの構築
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	

b.	水素
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	

c.	CO2等を用いたプラスチック原料製造技術開発
目標年度	
定量的目標	

選択対象に関する定量的目標の概要	
------------------	--

d.	CO2を用いたコンクリート等製造技術開発
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	

e.	CO2の分離回収等技術開発
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	

f.	次世代船舶の開発
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	

6.適用範囲

当宣言は、以下の範囲まで適用されます。

適用範囲	子会社
------	-----

当社は、この宣言に基づいてGX価値を評価し、GX製品の早期の社会実装に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進してまいります。

（日付） 2025年8月26日

川崎重工業株式会社（企業名）
執行役員 企画本部長 平松 秀基（責任者名）